

# 子どもたちに未来を。

- 1.プロジェクト概要
- 2.住環境教育の内容
- 3.次世代を担う子どもたちに伝えたい住宅のカタチ
- 4.プロジェクトの実施体制と役割分担

1

## 1.プロジェクト概要

1-1.省CO2型モデルハウスを地域の子どもたちの住環境教育の場に活用し、地域への省CO2型住宅の推進を目指すプロジェクト。

### 1-2.普及促進するために

- ① 地域工務店、ふくい健康省エネ住宅推進協議会など関係団体との協力・連携し、子どもたちを対象にした体感型学習を実践する
- ② モデルハウスを期間限定で一般公開し、省CO2住宅の普及促進を行う(住教育イベント開催)

2

# 1.プロジェクト概要

## 1-3.モデルハウスの目的

① 子育て世代へ 新しい家づくりの提案	<ul style="list-style-type: none"><li>基礎学力を高めるために、住宅環境を正しく整える</li><li>子供動線を配慮することで「しつけ」をし易くする</li><li>エネルギーの見える化でエコ意識を高める</li></ul>
②期間限定で一般公開 (年間3サイクルの予定)	<ul style="list-style-type: none"><li>省CO2住宅の普及活動につなげる</li><li>地域工務店の省CO2建築スキルUP</li><li>住教育イベント開催</li></ul>
③空き家/空き地 対策として	<ul style="list-style-type: none"><li>モデルハウス運営で空き家/空き地を有効利用する。</li><li>空き家の省CO2改修も行う</li></ul>

3

## 2.住環境教育の内容

### 1.次世代を担う子供たちに正しい住教育で地域とつながる

#### 【モデルハウスから地域の子供たちへ】

モデルハウスのデータを見せて、高性能な住宅を子供たちに学習してもらう。特に模型を使った実験では、モデルハウスと一般住宅の性能を比較できることとする。

- ①家庭科学習の時間を利用し、サーモカメラ、模型で温熱学習を行う。
- ②機材や模型を使い、簡易実験をする。⇒住空間への影響を疑似体験。
- ③夏の日射遮蔽と冬の断熱化を学ぶ。
- ④地域工務店も授業に参加し、子供たちに実体験を教える場をつくる



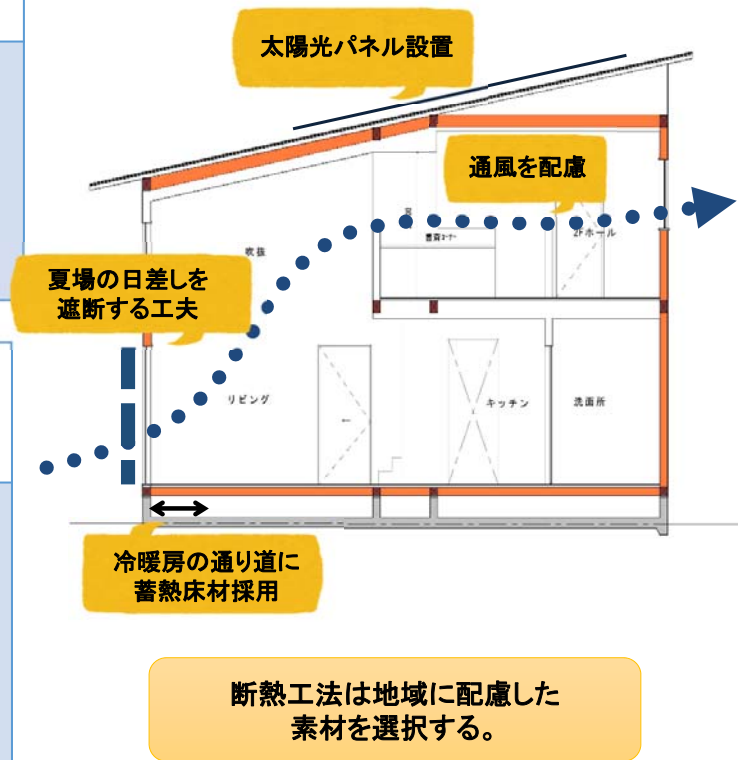
### 3.次世代を担う子どもたちに伝えたい住宅のカタチ

#### 3-1 設計の配慮(パッシブ設計)

- ①外皮性能 UA値 0.50以下  
ηA値 1.9以下
- ②南面開口部に延床12.5%以上
- ③通風を配慮した空間づくり

#### 3-2 子どもたちにもわかりやすく 3つの見える化

- ①住宅性能表示  
(エネルギーパス)
- ②発電と消費のエネルギー  
(エコめがね)
- ③毎日の温度と湿度の記録  
(おんどり)



5

### 3.次世代を担う子どもたちに伝えたい住宅のカタチ

#### 3-3.今回導入する省エネ設置の内容

##### 設備機器

高効率・高性能機器を採用  
(AC・エコキュート・LED・熱交換気)



##### 住環境の見える化

- ◇温度/湿度計測器
- ◇遠隔監視モニタリングシステム



住宅の性能表示  
エネルギーパスによる  
省エネ評価



- ◇南面開口部から1m以内の主たる居室の床は蓄熱床材を採用し、暖房期のエネルギーを抑えることし、冷房期は外部ブラインドで開口部を遮蔽し、蓄熱床材を冷房で冷やし、冷房エネルギーを抑える。
- ◇雨水タンクの設置により、節水対策をする。

6

# 4.プロジェクトの実施体制と役割分担

